

防大10期生会 嶋野隆夫 記

4月8日、偕行社にて10期生会を行いました。参加者は、陸OB 44名、海OB 9名、空OB 19名、合計72名でした。

今回は2年後の第1金曜日、原宿の水交会を予定します。

懇親会の前に、50周年ということで、32名が靖國神社に昇殿参拝しました。

懇親会参加者は次のとおり。(敬称略)

- 陸上 安部 天野 山本 矢ばせ 高瀬 押川 若松 和田 田中丸 浅田 寺本 嶋野 重松 遠山 重村 藤井 村松 石飛 村越 寺村 大坪 森本 岩本 野口 白石 若木 喜田 幸田 此本 此本夫人 坂手 戸高 中埜 河相林 岡村 佐伯 大高 岡本 佐野 土井
- 海上 長谷川 増田 大田 坪屋 坂東 菊田 清先 高場 橋本
- 航空 青野 遠藤 大串 小川 鹿毛 欠瀬 亀井 川田 北川 小林 金春 津金澤 中司 保木 水町 松尾 安松



九州からかけつけた同期生と奥様

熊本地震災害とオスプレイ

空自 平田伸成

20日付の産経新聞に「19日、在日米海兵隊の垂直離着陸輸送機MV22オスプレイが、熊本県の八代海に停泊している海上自衛隊のヘリコプター搭載型護衛艦『ひゅうが』に着陸。艦上で水や食料、簡易トイレなどの救援物資を積み込み、南阿蘇村の白水運動公園に空輸した」との記事が掲載された。

これを見て、「あはーん、左翼系新聞はこのことをどう報道するのだろうか。多分また既成事実づくり的行動などと報道をするのじゃないか」と思っていたら

案の定。共同通信、朝日、毎日、東京、沖縄夕

イムス、琉球新報が「政治利用」「パフォーマンス」などと報じている。

共同通信が配信した記事

「露骨すぎ」身内も批判、(日米)同盟PR、安全性宣伝か」

朝日新聞

「必要性 疑問の声」「政治的な効果」などの小見出しを取り、「今回の救援活動に必要なのか」「災害派遣での実績作りを急いだ」

毎日新聞

「オスプレイ物資搬送『政治利用』の声も」との見出しで伝えた。

どうして、この手のメディアはこうもひねくれたものの見方をするのだろうか。そんなに軍事関係が嫌いなら、憲法違反だと断じている「自衛隊を2万人も出すのは言語道断」と併せて書いたらどうだろうか。

熊本地震での被災地は、引き続き余震のため、生活物資などの支援物資も満足に届かない状態が続いている。ジャーナリズムとしては被災者の困難をできるだけ早く取り除くためにも、活用できるあらゆる手段をもって対応するよう政府・関係機関に働きかけるのが、報道の本筋であろう。

このような時期にイデオロギーをふりかざして自己の主張をするなどもつてのほか。日本の反日メディアの報道は、常軌を逸していると思えない。これが、

日頃正義をふりかざす反日メディアの実態である。(4月21日記)

憲法記念日に思う

空自 平田伸成

今日は憲法記念日ということで、新聞なども「改憲是非か」などと憲法問題を多く載せている。昭和22年(1947)5月3日に施行されてから69年が経つそうです。憲法問題(特に9条の解釈)について、いつ頃の国会から議論され始めたのだろうと思ひ、防衛ハンドブック(朝雲新聞社版平成14年度)を調べてみると、自衛権の存在(鳩山内閣の統一見解)として29年12月22日の衆院予算委員会で大村防衛庁長官の答弁が載っていた。とすると、少なくとも62年間はこの問題について国会で議論され続けてきた。そして未だに何も変わっていない。どういふことになるのだろうか。

そこで僻目で観てみると、もちろん改正条項の第96条が厳しかったこともあるが、

① 野党としては、憲法9条は何かおかしい(現実にはそぐわない)と思いつつもこれを失うと与党(自民党)との対立軸を失くしてしまうので、あくまでも改正反対を言い続けなければならない。どっちかという国が亡びるより党が亡びる方がもつと怖い。

② 多くの憲法学者が、「自衛隊は憲法

違反」と言うが、この人たち「憲法を改正して正しい形にすべき」だとは決して言わない。何故ならば、改正して正しい形になったなら、おまんまの食い上げになる。

③ 日本人の国民性としての「曖昧さ」。自衛隊が違憲であろうが合憲であろうがどっちでも良い。税金泥棒とレッテルを貼られた時期もあったが、それにより自衛隊員の俸給も低く抑え、防衛費を抑制できた。

国民としては違憲であろうがちやんと災害派遣で働いてくれたらそれで良い。

中学社会の教科書『公民社会』では、日本国憲法の3大原則として

「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」を教えている。

「平和主義」の項は、第2次世界大戦、大東亜戦争を通じて戦争の悲惨さを痛感した日本は、「戦争の放棄」、「戦力の不保持」、「交戦権の否認」を憲法に定めている。

※戦力の不保持とは、軍隊その他の戦力を持たないこと。

※交戦権の否認とは、国家が戦争をする権利を認めないこと。

ということとは、子供でも自衛隊は憲法違反なんだということを知っている。

居心地が良ければそれでいいのでしよう。子供も含め国民全体が知っていないながら、おかしいと思いつながら、69年も経つ

てしまったのです。

国民性の「曖昧さ」でしか説明しようがありません。

関西不惑会

鳥居重樹 記

4月10日、春爛漫の京都御所の傍らの京都ガーデンプレイスホテルで、参加者21名(内ご夫人5名)で実施しました。

関西不惑会は、日時、場所は毎年同じで、特別な連絡、案内もなく、自動的に皆が集まりますので、ぜひ皆様も来春の京都の不惑会にご参加ください。



後列左から 坪井 宇高 三宅 木口
鈴木 中村 林 砂子 川端 難波 土
橋 佐賀 加賀本
前列左から 鳥居 伊藤 林夫人 難波
夫人 大西夫人 坪井夫人 中村夫人
大西